



教育講演1：小児がんの子どもの社会保障・社会福祉

13:00~14:30

ワークショップ1：口腔ケアの実践 15:10~17:10演題発表（口演・ポスター）：

9:00~10:00	一般口演 家族支援
10:10~11:10	一般口演 学童・思春期
11:10~11:40	一般口演 プレバーレーション
14:40~15:40	一般口演 退院後のケア・長期 フォローアップ
15:50~16:40	一般口演 終末期ケア・死後の問題
16:40~17:20	一般口演 在宅療養

平成23年11月27日（日）

教育講演2：小児がんにおける現状と小児がん診療体制について 8:30~10:00医師と看護師の共同企画シンポジウム：小児緩和医療の活動と課題 10:10~11:40演題発表（口演・ポスター）：

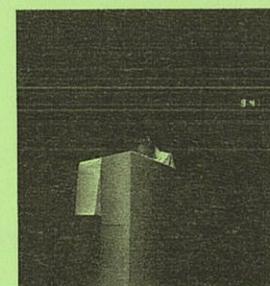
9:00~10:00	一般口演 化学療法・口腔ケア
10:10~10:50	一般口演 化学療法・食事
10:50~11:30	一般口演 復学支援・社会生活
14:05~15:00	ポスター 家族支援・その他

**第8回小児がん看護研修会の報告**

今年も8月27日（土）に、国立成育医療研究センターの講堂にて、第8回小児がん看護研修会を開催いたしました。教育委員の活動として、小児がん患者をケアするうえで直面する症状マネージメント2回目の今年は「口腔粘膜障害」をテーマとして、本学会研究委員会による調査報告と4人の専門職種からの講演が行われました。猛暑の中80名の参加があり、みなさん熱心に演者に耳を傾けていました。

調査報告では、質問紙調査結果より得られた看護師の役割や、ガイドラインへの要望が報告されました。参加者から「口腔ケアの臨床上での問題が分かり良かった。」「看護師として関わることの課題が良く分かった。」と感想をいただきました。

講演1は、木下先生（歯科医師）から、がん治療の支持療法として歯科の関わり、群馬県立小児医療センターでの取り組みなどをご講演いただきました。参加者より「なかなか歯科の立場から口腔粘膜の話を聞くことは少ないので貴重な機会だった。病棟でも

調査報告 内田雅代先生  
(長野県看護大学)

歯科医師と日常的に関わって行けたら良いと思った。」「歯科の先生の講演を聞き、歯科医師・歯科衛生士とのチームワークが大切だと感じた、歯科に働きかけていきたい。」など、前向きな感想をいただきました。

講演2の清谷先生（国立成育医療研究センター 医師）からは、がん治療に伴う口腔合併症・粘膜障害の原因と特徴をお話しいただき、症例を示していただきました。参加者は、「基礎的な分かりやすい説明で、患者・家族に説明する時の参考にしたいと思います。」とありました。

講演3は、妻木先生（静岡がんセンター摂食・嚥下障害看護認定看護師）の口腔内のトラブルのアセスメント・セルフケアへの支援・他職種との連携についての講義でした。「看護師の役割について考えさせられ整理できました。」「“支持療法としての口腔ケア”看護師が主体となる支持療法にもっと力を入れていく必要があると思います」との意見が寄せられました。

講演4では、廣瀬先生（群馬県がんセンター 管理栄養士）より口腔粘膜障害時の食事のポイントを講義いただきました。参加者からは「食事介助する上でとても参考になりました。」と感想をいただきました。

各講義とも実践に即した内容で参加者の方々にも好評をいただけたのではないかと思います。今後的小児がん看護研修会テーマへも「倦怠感、不眠といった安楽につながるケアをテーマにして欲しい。」「症状マネージメント自体をグループワークも交えて研修してみたいです。」など積極的なご意見を頂いています。今後の参考にさせていただきます。参加していただきありがとうございました。

(教育委員会 浅田美津子)

+++++

**第43回国際小児がん学会の報告**

2011年10月27日から30日まで、オークランドにて第43回国際小児がん学会（43rd International Paediatric Oncology Conference: SIOP2011）に参加しました。学会は26日から医師のプログラムが開始され、27日から親の会・当事者（ICCP）のセッションが開始、また看護師を対象にした教育セミナーがありました。看護職の発表は28日～30日までの3日間で6つの一般口演のセッション（28演題）、30のポスター発表、Key Note、シンポジウムなどがあり、世界各国のナースたちからの看護実践の報告、小児がん看護の教育や研究の発表が多数行われました。今年の看護部門へは、18カ国から160名の看護師の参加がありました。

ここ数年、「晚期合併症」や「思春期・青年期の小児がん患者」に関する演題が増えているなと感じていました。今年は看護部門だけでなく、全体のプログラムの中に「思春期・青年期の小児がん患者」に焦点があたっているものが多いと感じました。ここでは、3つのシンポジウムの内容を簡単にご紹介します。

「シンポジウム6：晚期合併症の予防とリスク軽減に必要な健康的な生活」では、晚期合併症の一つである「骨」の問題の予防に向けて、子どもの頃に受けた治療の影響に加えて、成長期や成人になってからのビタミンDやカルシウムなどの摂取の必要性が述べられていました。また、思春期・青年期の小児がん患者・経験者に向けた栄養と運動のプログラムの紹介がされていました。晚期合併症の予防には日々の健康的な生活が重要であり、フォローアップ外来における健康教育が重要だと考えます。

「シンポジウム7：妊娠性（にんようせい）に関する臨床的・技術的問題」では、医学的な問題や技術に加え、思春期・青年期の小児がん経験者への教育や相談が不可欠であることについて、助産師による発表がありました。日本でも、妊娠性について助産師などの母性看護の専門家に協力を得る必要性があると思われます。

「シンポジウム10：思春期・青年期の患者へのケアの地域による違い」では、イギリス、北米、オセアニアからの発表がありました。イギリスでは、13のTeenager & Young Adult (TYA) 専門の治療センターがあります。また、オークランドにある Starship Hospital の小児腫瘍科の病棟や外来では、プレイルームや処置室が、幼児用と思春期用に分かれて設置されているなど、思春期以降の小児がん患者への配慮が整っている施設が増えていると紹介がありました。さらに、今まで「小児科」の次は「成人の科」へ移行していたが、その移行期である「思春期・青年期」の患者には特別なニーズがあり、ケアも専門性が必要なので、新しい科とすることも検討する必要があるのではないか、との意見もありました。来年のSIOPは、ロンドンで開催されるので、イギリスにおける TYA へのケアについてもっと学びたいと思いました。（淑徳大学 小川純子）



ポスター会場にて 看護部会会長パティさん達と

2011年10月24日～26日の3日間、シドニーの郊外にある The Children's Hospital at Westmead（ウェストミード小児病院）と附属の Bear Cottageにおいて、小児がん看護に関する研修に参加しました。

ウェストミード小児病院は、通称「美術館病院」と言われている位、廊下や病室の壁、検査室など、あらゆるところに様々な絵や彫刻が飾られていました。これらはすべて、専門の美術コーディネーターが統括しているとの話でした。病床数は全体で340床、小児腫瘍科病棟は24床です。年間患者数は2600人で、小児がんの新患は120人～130人程度です。ALLの学童の場合は発症後4週間から6週間は入院して化学療法を行い、その後学校に戻ることが可能であるが、年少児は維持療法になってから保育園などには通うことが可能になるとお話しでした。入院期間や学校へ戻れる時期は疾患により異なり、AMLや固形腫瘍の場合には、化学療法が全て終了してから学校に戻ることになっているとのことでした。

今回の研修では、小児腫瘍科外来、小児腫瘍科病棟などの見学に加え、外来師長、Community Nurse、病棟のNurse Educator、小児腫瘍科担当のSocial Worker、Palliative Care Teamのメンバー、小児腫瘍科専属の募金コンサルタント担当者など、小児がんの子どもと家族に関わる様々な専門職に会うことができました。

最初にあった外来師長のクリスティーンさんはとても明るい方で、「子どもが笑っていること」を大切にしている、「I Love You」は12ヶ国語で言えると話されました。外来には、専従の臨床心理士とプレイセラピストがいて、子どもたちの心のケアと遊びの援助を行っていました。

初発で入院した時から、小児腫瘍科専任のSocial Workerがかかり、子どもと家族の心理的なサポートや学校などの調整を図っていました。また、Palliative Care Teamは、小児がんの子どもたちの痛みの管理と緩和ケアを担当していました。子ども達は、入院中から処置や治療による急性の痛みを緩和する人として、Palliative Care Teamを知っており、このチームと親との信頼も厚いため、終末期になった場合の緩和ケアが効果的に行えるとのことでした。

小児がんの子どもと家族に関わる様々な専門職種が連携して働いていると実感しました。また、多くのボランティアや医療職以外のスタッフがいることも大変うらやましく思いました。詳細については、学会誌にて報告させて頂きます。

(淑徳大学 小川純子)



小児腫瘍科外来師長(左)とプレイセラピスト